

Nahoko 音関連のレポート

平成 18 年 12 月 30 日

平成 20 年 3 月 16 日 内容がわかりづらいので大幅修正

文責 有馬輝男

目次

第 1 章 nahoko 音について

- 1.1 曲についての印象
 - 1.1.1 全体的な印象
 - 1.1.2 よくみられる曲のパターン
 - 1.1.3 比較的良い印象を受けた曲について
- 1.2 ブックレットについて
- 1.3 表紙について
- 1.4 作品リリース時に想定されるファン側の挙動
- 1.5 次回以降の作品の予測
- 1.6 作品の総括

第 2 章 ネットと CD 販売との連携に関する考察

- 2.1 CD 作品が予想以上に売れた要因
- 2.2 販売戦略の問題点
 - 2.2.1 問題点 1 アイツネではなく、公式サイトで市場調査すべき
 - 2.2.2 問題点 2 宣伝不足と CD の入手しにくさ
 - 2.2.3 問題点 3 ホームページの知名度が低く、内容も浅い
- 2.3 改善案
 - 2.3.1 公式ページの活用 1 ファンからの意見の集計と其の蓄積と分析
 - 2.3.2 公式ページの活用 2 ナオタン自身による PR
- 2.4 ホームページと CD 販売の連携についての結論

第 3 章 結論

第1章 Nahoko 音について

本章では主に Nahoko 音の CD 作品の中身について感じた事を記す。説明の流れとしては以下のとおりである。アルバムの中身は曲、ブックレット、表紙の順に考察を行う。

1.1 曲についての印象

1.1.1 全体的な印象

1.1.2 よくみられる曲のパターン

1.1.3 比較的良い印象を受けた曲について

1.2 ブックレットについて

1.3 表紙について

1.4 作品リリース時に想定されるファン側の挙動

1.5 次回以降の作品の予測

1.6 作品の総括

1.1 曲についての印象

1.1.1 全体的な印象

曲の全体的印象について述べる。曲を聞いては見たが、メロディーがめまぐるしく変わり、同じ曲の中に同じ様なメロディーが殆ど無い。要するに思いついたのを其の俣弾いているように見える。之は作曲する前の素材ではないか。思いついたメロディの素材を其の俣聞かせるよりはある程度加工と修正を加えていった方が曲の完成度が高まる。其れと、歌につながるようなメロディーの繰り返し(1番→2番→1番の後半部分の順か1番→2番→3番の順)がほしかった。

殆どがテンポの遅い退屈曲ばかりであるのは予想通り。曲の構造的、初鍵でピアノを弾く技量については音楽性が高いといえるが、作曲された曲の聞き手に与える印象は薄い。一言で言うと歯医者さんでかかっている感じの、曲といえばちゃんとした曲なのだけれども、心を打つようなインパクトにかけている・・・という感じ。過去の歌の作品でも退屈な曲と他の人の曲を真似たようなのも時折見られる。例えば「言葉はいらない」は石川優子の「真夜中のオルゴール」、 「緋の少女」は秀樹のジャガーかブーメラン・ストリート、「ハーバークライムメモリーズ」と「ノスタルジックダンステリア」は本田美奈子の「Oneway Generation」、 「ハーフムーンセレナーデ」は岩崎宏美の「思秋期」に非常によく似ている。ピアノを弾いたりメロディを作る技量が高いものの、オリジナリティやインパクトに欠けているという事である。

1.1.2 曲の中で観察されるパターン

観察される全体的な傾向について述べる。

(1)出だしが退屈で、引かれる物があまりない。

ソーシードー(in real life)とかドレファラ?かラドファラ?(in any case)を同時に引いたりとか、つまり単音、複音のメロディで退屈そうに始まるか、手を鍵盤においてからのそのそ始まるか、其のどちらかが多い。アルバムの雰囲気もあるだろうが、退屈な雰囲気をなくするには、一気に盛り上がりに入っていくタイプの曲を何曲か入れるべきだ。要するに出だしから土管を割るくらいドカンといくようなタイプの曲を意識して作るべきではないか。

(2)インパクトのある、曲を代表するイカすフレーズが殆ど無い

曲の一部を歌うなり演奏するなりしただけで、何の曲かすぐ分かるようなメロディーがないから退屈に聞こえるのではないかと自分は思う。之に関してはナオタンには出来るのかできないのか分からない。ナオタンにできるなら、そういう曲を思いつき、かつ其れを改良していく訓練をしてほしいし、無理ならまともな曲を作れる人と組んで意見を出し合いながら作った方が良いのではないか。

(3)テンポが遅いのばかり→直すのは簡単なはず

之は心がけ次第で簡単に治せるでしょう。歌でもそうだが、ある程度以上のリズムを持っていかないと、全部のろい曲ばかりだと同じ様な曲ばかりになり退屈化する要因になる。ナオタンの体の動作、神経の伝達速度が遅いから其のペースだと丁度いいのかもしれないが、聞く側としては之だと困る。第一、ナオタンファンの殆どは男だ。一般的に男は女よりは動作、神経伝達速度が早い。だから其のペースにあわせてくれ。アルバムの曲全部で平均すると速いテンポとのろいテンポの中間位になるのが丁度いいのではないか。全部テンポが速いのも偏っているが、早い:のろいの比は6:4か5:5くらいにすべきではないか。

蛇足だが、男でも女でも顔以外のルックスが良い+顔も美形の歌手だった場合、ファンを構成するのは異性が多いのは一般的に言える事ではないか。自分からみれば女の9割はクソブス、デブ、幼児体型の少なくともどれか1つに当たっている。男も自分を含め同じ様だろう。だから見てくれの良い歌手は同姓からは嫉妬の目でみられるのでしょう。

(4)早いのが一度のろくなったらまた早くなるという繰り返が多い

後半の曲に多いが、別にわるい事ではないと思う。どちらかといえば後半の方がにぎやかではある。ただ、全体的なテンポが遅い。ずっとアップテンポで通す曲も必要ではないか。

1.1.3 比較的良い印象を受けた曲について

全部駄目な物ばかりではなく、中には比較的まともだと思える曲もあったから、そこから何か引き出せる物がないか考えてみた。In my opinion, as a matter of fact, tears running my checks が比較的良い印象を受けた。それらの曲についての考察を行った。音階に関しては自分の聞き間違いがあるかもしれない。メロディーは基本的に右手で弾く方の音を注視して述べている。

(1) In my opinion

・傾向と曲の流れ

ラシソレドシラやラシソレを柱にしているのは分かった。少なくともソ#シb。あとはピアノで弾き比べたらフラットかシャープは判別がつくが、詳しくは分からない。一度曲のテンポがのろくなってから早まるのを繰り返しているのは何故？

ラシソレドシの繰り返し音で演奏が始まり(*1)、大体 26 秒くらいして、雰囲気が変わり、ドソドソドソ・・・と低音で進むようになって雰囲気が変わる(*3)。46 秒くらいからレシラソ、レミラシレ、レミ・レミ・レラを主体としたメロディー、1分6秒くらいからレ、ミ、ラ、シ(右手の方は)の構成によるメロディー、1分56秒くらいからラシソレを主体としたメロディーの繰り返し(*1)、2分35秒くらいからドソドソのメロディー(*3)、途中で弾み気味のリズムになり(*2)、3分11秒から左手、右手ともに一オクターブ上がって右手はラシソレドシの繰り返し、(左手はそれに対応してドソシとかドレソとかを弾いている。)最後にテンポがのろくなり、ラシソレソソ・・・となっておしまい(*1)。

・良い、悪いと感じた所と改善案

(*1)のように頭に残るメロディーを柱に曲を作っている所は評価できる。だが、統一感が乏しく、思いつきでやっているように感じるのが汚点。一番わるいのは(*2)の弾み気味のリズムだ。せっかく作っているシリアスなメロディーの雰囲気を台無しにしている。(*1)のメロディーだけでも曲としてなっていない、でも(*3)のメロディーでは其の柱のメロディーは引き立たないと自分は考える。(*1)のメロディーを重視し、(*3)のメロディーは低音でドソドソはいるのではなく、もっとシリアスにアップテンポな別のメロディーに置き換えた方がいい。(*2)は不要。そして、歌につながるように1番、2番、という感じでメロディーの展開を繰り返し気味になるようにしてほしい。

・歌う曲への可能性

このメロディーに其の俚歌詞をつけてもあまり意味が無いが改良を加え、歌のフォーマットにあわせて、アレンジをすれば歌の演奏に変身できる。頭に残るリズムがあるから之はアップテンポでかつシリアスな雰囲気にしたらイカシた曲になるだろう。

(2) as a matter of fact

・傾向と曲の流れ

之も歌う曲へ発展させるとイカス曲が出来るのではとおもった。ソラシドシラソミレドシラソラシドシラソラソファが柱である。シはフラット、ファはシャープだけどそれ以外は微妙。ソはシャープなのか普通の音なのか之を聞くだけでは不明。

ソラシドシラソミレドシラソラシドシラソラソファ(*11)をオクターブを上げたり下げたりしながらの繰り返して、25秒から35秒、1分20秒から1分35秒位の部分ですこし違うメロディーになる(*13)以外は全体的に大きなメロディーの変化は無い。1分35秒くらいで一度左手のオクターブで(*11)を弾く、そして、まとものオクターブに戻り、ドレファソ?を同時に弾いておしまい(*12)。

・良い、悪いと感じた所と改善案

之は今回のアルバムの中で一番まともだと思った。(*11)と(*13)によるコンビネーションは良い雰囲気を出している。だが、テンポが少しのろいのと、弾き方が弱いのと、曲のながさが2分不足と短すぎなのと、終わりがやすっぽいのが惜しかった。最後の締めくくりは(*12)のような複音をぼんと弾くだけで終わりなのが種が尽きて弾くのをあきらめたようで、安っぽい印象を与える。起承転結がしっかりしていたほうが印象がよい。このメロディーはアップテンポ向きだ。この素材からのりのいい曲を作って歌えるはずだ。テンポが少し早めのほうがいい。其れと、タブー(レーレ・ラーと1オクターブ上がって入っていくアレ・・・自分がタブーといったら郷ひろみのほうであり、小出広美のデビュー曲や加藤茶のちょっとだけヨのじゃないよ。)とか必殺仕事人(ソファソー!ソ・レ・ミ・ファ・ソ・ラシーラソファソーラソファソー!)の出だしのようにジャジャジャーと曲にアクセントを与える音を追加するとより引き立つ。菊池俊輔的な音に通じる物があると思った。

・歌う曲への可能性

アクセント的なフレーズを加え、80年代のサウンドでのりのりでいけば(+歌う曲へフォーマットをあわせる)唇のプライベートなかつこいい曲が作れる。是非こういう曲を作れるように訓練を重ねてほしいものだ。菊池俊輔の威風堂々とした、インパクトのあるのり+80年代サウンドでいけばエスカレーション=ナオタンの看板曲というのを覆せるかもしれないし、自分は其れを望んでいる。

(3) Tears running down my cheeks

・傾向と曲の流れ

出だしはのそのそ・・・と入る。30秒で雰囲気が変わり、少しにぎやかになる。55秒でまた雰囲気が変わって少しにぎやかになる。ドレドーシードー、ドレドーシーラーシーが其の

時のメインを勤めるメロディになる(*21). 一旦盛り上がった後, 1分40秒から2分00秒の間は同じ音をソソソファファファファミミレレレという感じの弾き方になる. 3音1セットで前後の2音が一オクターブ上になる弾き方だ. それ以降はまた(*21)に戻り, また2分20秒辺りから盛り上がる. この盛り上がりが一番にぎやかで, そして3分12秒でおしまいになる.

・良い, 悪いと感じた所と改善案

のろい曲だがこの曲のテンポは之で丁度良い. この曲は之とって頭に刻まれるインパクト性にはうすいが, かといって退屈でもないと感じた. なぜならちゃんと抑揚があるからだ. のそのそ弾いているだけではなく, ちゃんと盛り上がる所は盛り上がっているからのろい曲でもイカスと感じた. 第一印象的には少しメロディーが複雑に入り乱れている印象を受けたがよくよく聞くとちゃんと起承転結も比較的しっかりしている.

・歌う曲への可能性

之を歌う曲の素材にするならバラードの様なのろい曲に向いていて, 大体2曲くらいは佳作が出来るだろう. のろい曲といってもあまりのろすぎると琵琶法師になってしまい, ファンをひきつけられない. ある程度以上のテンポの速さとにぎやかさ, 曲の抑揚は必要だ.

1.3 ブックレットについて

ブックレットについて意見を述べる. 図 1.1 がその中の一部である. 服装と髪型はナオタンの顔立ちに合っていると思った. 髪型はそれほどイカすとは思えないけれども90年代の似合わないおばんくさい髪型よりはかなり改善されている. おかつぱ頭をセミロングに変えて少々伸びた頃, つまりUNバランスを歌ってた頃, ジェラストレインを歌っていた頃

の髪型に似ている。バカヤングみたいに染めたりもしないので安心した。しかし全体として、構成が物足りない。突っ込みどころ満載である。写真も目をつぶっていたりそっぽを向いている写真、ナオタン以外の写真が混ざっていて雰囲気は全体的におぼんくさい。写真を一目見てもこの人はおばさんだと分かる。昔のピチピチだった頃のナオタンと見間違えうような感じにならないのだろうか？ナオタンの家か別荘の内部の写真を載せるよりももっとナオタン自身の写真、とくに、80年代の頃よく写真集や雑誌で写っていた感じの笑顔の写真をたくさん載せて、かわいい女の子路線でブックレットを飾ってほしかった。



図 1.1 ブックレットの中の写真

(1)ポスターにしたくなるくらいの絵的にイカス構図がほしい

確かに写真の配置や背景は考えてあるが、少なすぎ。あの雰囲気で行くならなおさらページ数が多いほうが良かった。多めに平成9年以降メディアに出ない状態が続いているのと、しばらくぶりに表向きに作品を出したからである。其れはCDの中で自身の存在感を再び強調する事にもなる。それに、先にアイツネでDL販売をした後にCDを出したわけだし、歌も無いし、曲のインパクトが薄いだから、ブックレットの内容充実で其れらのマイナス面をカバーすべきであった。

(2)なぜそっぽを向いたり目をつぶった写真ばかりなのか？

カメラ目線で撮った写真をメインにすべきではないか。藤圭子の餓鬼の構図をまねてい

るのは分かるがそういう構図は撮影者の自己満足にしか見えない。藤圭子の餓鬼は売り上げ規模こそナオタンより上だが容姿はナオタンよりもはるかに劣る。そういう人間の為に作られた構図が見た目が数段も上のナオタンに似合うはずがない。ナオタンから見て明らかに格下のルックスの女とおんなじような扱いを受けて悔しくないのだろうか？二番さじはたいがい失敗に終わる。目をつぶったりそっぽを向く写真からはファンの期待から目をそらしてしらけている感じがする。せつかく髪型と服装が前の作品よりよくなった。例えば **Members Only** の岩崎宏美状態やスカーレットのバカ殿様よりはずっとましである。そういうプラスの面をカメラ目線の写真を多用する事でさらに引き立たせる事が可能になる。ナオタンの顔は大きな光った目と八重歯（八重歯はもう無いが・・・）による可愛い笑顔が売りではないか。ナオタンの目線はかなり大事である。

(3)笑った写真がない

アルバムの雰囲気に合わせてあるのかもしれないがファンの的には笑った写真もあった方がよい。色々な角度から色々な表情を撮ったほうが印象が良くなる。ナオタンの表情を代表するのが笑顔ではないか。笑顔といっても全盛期の頃のスマイルフォーミーのジャケットみたいな河合らしいナオタンスマイルの笑顔の写真にすべきである。

(4)曲の解説がブックレットに全くなしなのはいかがなものか

どこにも作った曲についての解説が載っていない。どういう風に作曲したのか、どういう意図なのかまったく書かれていない。そういう部分にはっきりと主張するものがほしいし、ナオタンの解説もほしい。其の解説、写真も加わるとブックレットの分量も内容も濃くなる。曲の印象の薄さもあいまって、曲なんてどうでもいいわよ！という感じが伝わってくる。其れでよいのだろうか？せつかく作ったのだから、それなりに主張する物がほしい。ジャケットの裏側に曲名が並べられているだけなのはむなしい感じがする。そういうところの構成が浅い。

(5)ぼかしは逆効果

何故顔が鮮明に見える写真を用いないのか疑問に思う。其れと、ブックレットの写真はナオタンの顔が映っているのが 2 枚だけで、且つ其れもコントラストをやたらと大きくして、不鮮明にしているが、ああいう撮影技巧は不要である。2 枚しかないのに、其のいずれも目をつぶっているのが不自然だ。カメラ目線で写す写真を優先すべきではないか。ジャケットの表もそうなのだが、元々美形なのだし、年も 43 歳 (**Forty-three years old**) なのだからわざわざ顔を見えにくくする必要性はまだないはずだ。人間を不老不死にする技術は今現在は存在しないので嫌でも人は年をとる物だが、現在はバカとのや鈴木その子顔負けの(表情を変えると化粧が剥がれ落ちる積層構造)厚化粧をしなくともしわをごまかす為の画像加工の技術もあり、ブス崎宏美ですらアルバムの **Dear Friends 3** は実際の顔とはまる

で別人の綺麗な顔に画像処理されている。

ブックレットへの改善すべき点は以下のようにまとめられる。

- ・ナオタン自身の写真を多用する
- ・曲の解説や本人のコメントを載せる
- ・写真はなるべく鮮明な物を用いるのと、カメラ目線、笑顔の写真を優先すべき
- ・ページ数を増やす

写真についてだが、昔の近藤真彦のシングルみたいにプロマイドか小さめのポスターを特典にするという手法も考えられる。

1.4 表紙について

表紙について意見を述べる。図 1.2 は今回のアルバムのジャケットの表と裏面である。表面と裏面の構図の UN バランスがすさまじいと感じた。配色的には違和感はない。しかし何故裏面とブックレットの写真を追加したのにもかかわらず表紙をアイツネのと全く同じにしたのか？わざわざとってつけたような構成になっているから写真全体の雰囲気があやふやに感じた。同じ作品だから表紙は同じにするのだ、というなら最初から CD を出した方がよい。販売戦略から見ても、ブックレット、表紙の雰囲気からもアイツネではなく CD 作品を最初にリリースした方がよい。ポーズもおとなしすぎる。UN バランスは小泉今日子のアルバム「今日子の清く美しく美しく」（図 1.4 参照）の表と裏のジャケを髣髴させる。

表面の構図にもいいたいのだが、そっぽを向かないでほしい。哀愁のシンフォニーみたいにこっちを向いて……。其れと、シルエット気味に撮ったのは理解に苦しむ。暗い雰囲気を演出する意図があったのだろうか？澄んだ歌声と非常にレベルの高いルックスを有していた昔（自分の計算では昭和 60 年のナオタンは 100 点満点中 93 点）に比べて老朽化が進んでやつれてはいるが、それでも美形は美形である。わざわざ顔を見えにくくして何の意味があるのだろうか？見えにくくしたり変な表情で気を引こうとするのはブサイクかブスが其の醜さをごまかす為に多用する手法であり、ブックレットの所でも言ったが、ナオタンは其れには全く該当しない。年齢的にも、43 歳（Forty-three years old）なのだからまだ鮮明な写りをためらう必要性もない。表紙も現在の顔立ちが良く分かるような構図にしておすべきだと思った。表紙に関しては笑っていてもそうでなくともカメラ目線の方がいいのではと思う。そっちのほうが CD 販売したのだから、アイツネの時とは違った印象をかもし出せるので購買意欲を掻き立てるには良かったのでは。そういう面もファン目線で考えてくれ。参考にしてほしいが、図 1.3 は長山洋子のアルバム「オンディーヌ」だが、之も美形なのに顔を見えにくくしている例である。



図 1.2 nahoko 音のジャケット 左図が裏面, 右図が表面



図 1.3 長山洋子 オンディーヌ(s62) 左図が裏面, 右図が表面



図 1.4 小泉今日子 今日子の清く美しく美しく (s60) 左図が裏面、右図が表面

裏面の構図自体は特に問題ない。この写真で百恵や小錦曙にはなっていないのだという証拠になって安心した。だからこそ表紙も裏面に準じた構図に撮り直すべきだった。これなら現在の容姿でも元からひどい魔痛駄聖子やすっかりしおれた詐欺鬼婆羅郁恵なんぞ目では無いだろう。榊原郁恵、石川ひとみ、森昌子を見てもそうだが、40位まで若々しくても40代後半にはいると急に老け込んでくる場合が多いという点は気をつけるべきである。梨型体型防止のために適度な運動を日頃から欠かさないで、将来的には年齢に見合わない若々しいみでくれを目指してほしい。特に、下半身の筋力を維持向上させるという点はナオタンには必要である。ふしだらな生活習慣や偏食、煙草や便秘は肌をわるくする。

1.5 作品リリース時に想定されるファン側の挙動

今回の作品リリース時に想定されるファンの挙動について説明する。まず、一般的に作品を出したときのファンの反応の場合わけをしておきたい。大きく分けて(1)から(3)の3つの反応がある。図 1.5 を参照されたい。

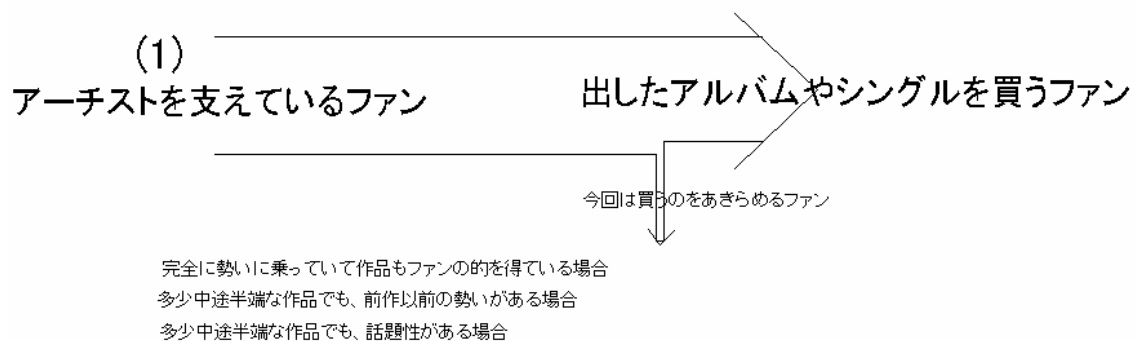


図 1.5 ファンの挙動其の1

(1)第一に、アーティストを支えている殆どのファンが作品を購入する場合について。ファン層に対して非常に的を得た作品、完成度の高い作品を出す場合は殆どのファンの嗜好に

あっているのに、非常にファンに対して強烈なインパクトを与え、一刻も早く買いたいという衝動に駆られるので殆どのファンが作品を購入する。この場合、新しいファンも獲得し、市場規模の拡大が促進される。

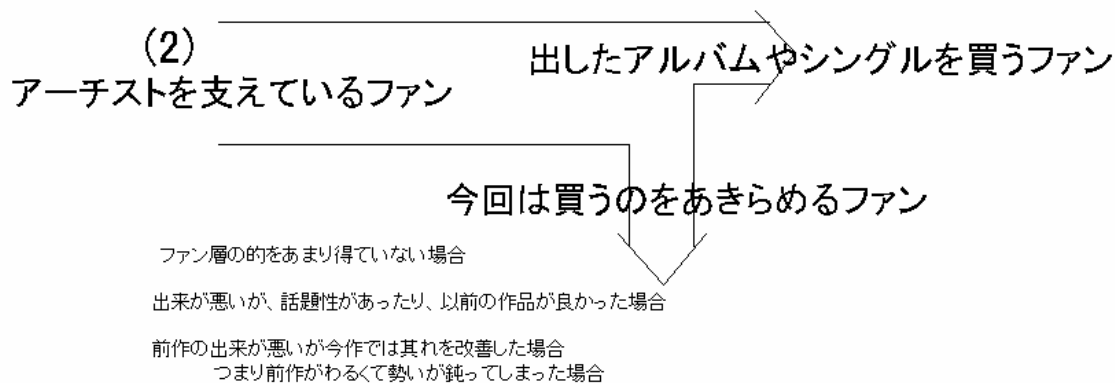


図 1.6 ファンの挙動其の 2

(2)ファン層に対して的の当て方が中途半端な作品場合は、ファンの挙動が半々くらいに分かれる。一方は多少自分の好みに合わなくとも、其のアーティストに合わせていこう……とある程度無理をして作品を買う行動、そして、他方は自分の好みに合わないから、飽きたなどの理由で買うのをやめた……となる行動である。ある程度以上の話題性が伴っている場合、または、ファンが其のアーティストの全盛期や過去の功績にひかれている場合、前者の割合が多くなる。しかし、其のファン層にあまりあわない作品を出し続けると次第に後者の方にファンが流れていき、つまり連続的に(2)の状態を繰り返す事でファンの規模が小さくなり、結果的に(3)の市場規模縮小の状態になり、少数のファンだけの市場に縮退してしまい、其のアーティストの音楽が多くの人に聴かれる事がなくなってしまう。作品の改良、自己鍛錬、合理的分析能力を磨いていくのであれば、其れは次第に(1)の方の状態になるだろう。

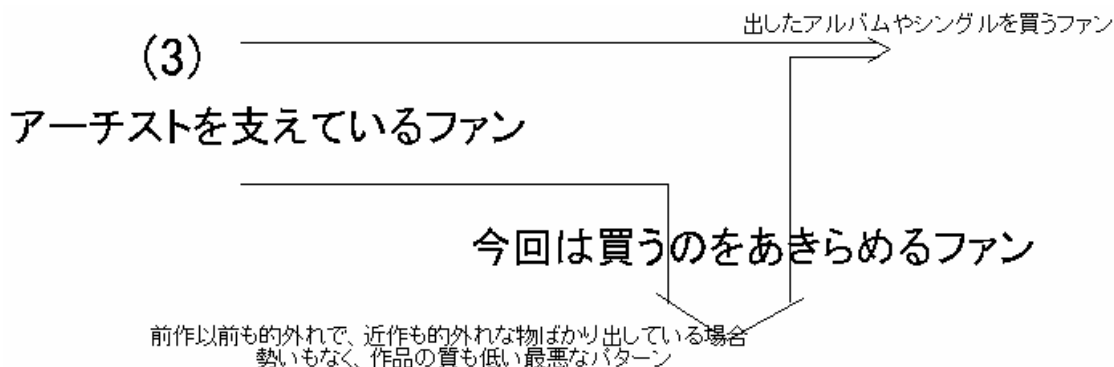


図 1.7 ファンの挙動其の 3

(3)全く売れない場合はファン層に全く合わない的外れな音楽を出す場合であり、一部の個人崇拜的人間にしか作品が受け入れられない。こうなったら終わりである。インディーズで地を這うしかないだろう。いかなる試行錯誤をしようとも、音楽活動を支えているのはナオタンファンなのだから、最低限ナオタンとして、(3)のような作品は出さないでほしい。

以上のような3通りの場合わけをした場合、Nahoko音は(2)に該当する。本来ナオタンは歌の作品をメインに出してきたのと、全盛期の頃の趣向とかなり違った作品だからである。(1)から(3)をまとめると図1.8のようになる。図1.8でいいたいのは、アルバム、シングルがイカシたから、ファンの的を得ていて、多くのファンが聞いた場合、非常に好評を博す場合でも、前作以前の作品が悪いとあまり売れ行きは芳しくない(でも地道に改善し続ければそれが認められていく。)ので(2)の挙動を示す場合もあり、逆に作品がひどくても話題性、勢いがあれば(3)でなく(2)の挙動を示す場合がある(でも手抜きを続ければ次第に勢いは薄れ、売上、評判は悪くなる・・・)。要するに作品の中身だけでなく、其の話題性や前作以前、もっと前の功績等も響いて良くも悪くもある程度幅をもって売上結果に響くのだと言う事だ。そこが製作側としては難しい所だろう。ここの分析の所で売上枚数だけでなく、公式サイトを聞いてじかに聞いた意見という結果資料が生きてくるのだ。

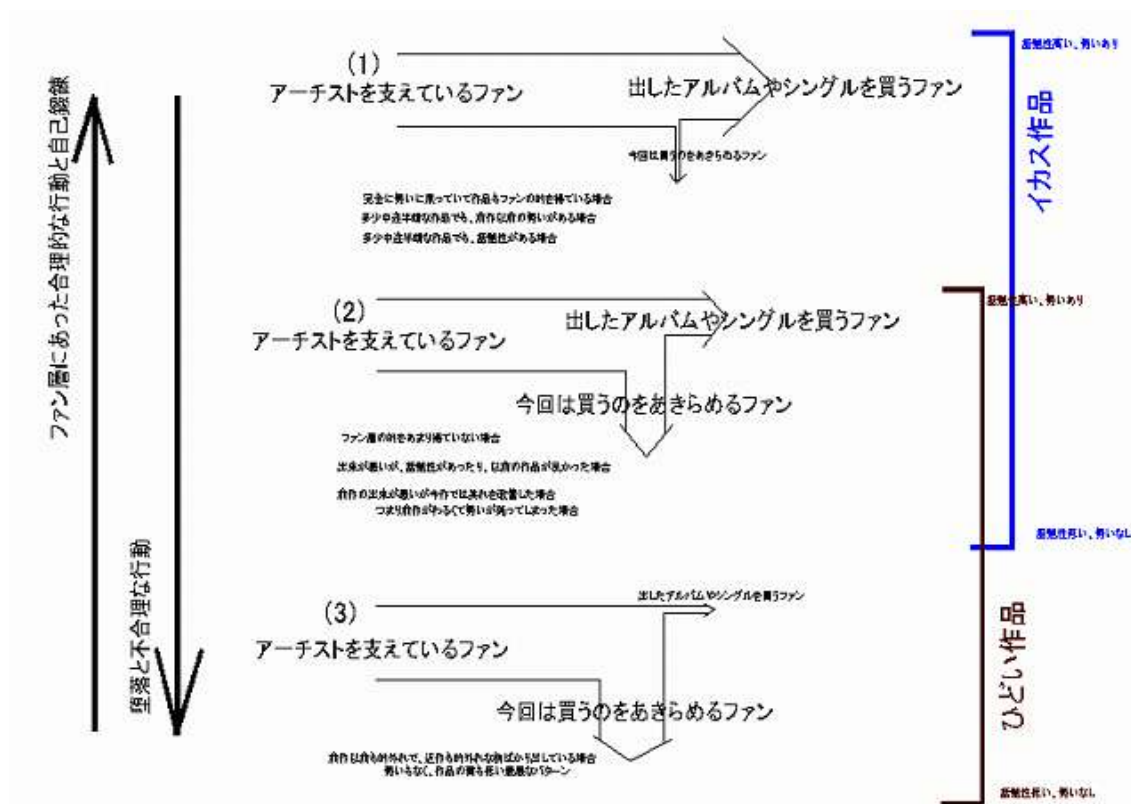


図 1.8 (1)から(3)の図の相関関係

1.6 次回以降の作品の予測

現実的に、今後もナオタンがマネジメントをして作品を出す場合、多かれ少なかれファン層にあわないのをだす可能性が高い。例えば売りがどん底に落ちていて歌手として起死回生を図るべき時期であった平成 5 年にファン層にまったくあわない女趣味的なアルバムや演歌歌手とのデュエットを出したりした。あの場合、真っ先に全盛期の頃のファン層の再獲得に努め、自身の作品の需要確保をすべきであった。まったく新しいファンを獲得するよりも既存のファンを獲得する方が簡単であるからだ。新しいファン獲得は既存のファンをある程度呼び戻してから狙えばよかった。当時 30 歳になる頃であり、既存のファンの保持なくして新しいファンの獲得可能性などありえないはずではないか。ファンが固定化し、新規のファン獲得がしにくくなる傾向はナオタンが年をとるに従って増していく。このように経験的にもファン層や売上げ状況をまったく省みない的外れな作品ばかり出す傾向が殆どであり、結局過去の人気に支えられて音楽活動をするナオタンになるだろう。新曲も過去のヒット曲と一緒に歌って宣伝する必要がある。逆に、そうしないと音楽活動の基盤が出来ない。

歌のアルバムを作るならば他作曲中心のなかに自作曲をはめ込むかオール自作の作品とオール他作を振り分ける方式が適している。完全分離方式ならばどちらがよりファンが欲しているかが良く分かるだろう。もっと極端な事言うと、ナオタン自作曲で、ナオタンの個人的嗜好に基づいた女趣味的な作品と全盛期の頃の曲の雰囲気そのままの 80 年代バリバリの新曲アルバムとを 2 作同時に出してどっちが勝つかを試してみてもどうか。そして、どっちがファンに望まれているか身をもって実感してほしい。幾つかの留意点と心がけるポイントを抑え、ファンの事をちゃんと分析して作品を作っていけば自作でもある程度勝負できるはずだと自分は考えている。

1.7 作品の総括

ナオタンの自作曲はたしかに誰かの曲を真似た曲や退屈な曲が多く、インパクトに欠けるがやりようによってはある程度ファンに受ける可能性がある。確かに退屈な曲が多いが、幾つかの留意点をふまえて作曲をしていけばファン受けの悪い、インパクトの無い曲を乱発する事にはならないはずだ。スカーレットのようにある程度佳作になる曲を作る事は出来るのだから、他作曲の勝負曲でヒットを狙い、自作曲でもある程度ポイントを稼ぐという事は可能ではと自分は考えている。ピアノのインストからもある程度其のヒントは見出した。心がけるべき点を箇条書きにすると

- ・ 全体的にテンポを早いものをメインにする。
- ・ のろい曲に関しては聞く側を退屈させないようにちゃんと盛り上がり所をつける
- ・ アップテンポ物に関しては明るい、シリアスだけではなく早いテンポでのりのいい曲に

なるようにする。

- ・ 一度覚えればこの曲だと判別がつくようなインパクトのあるメロディをつけるよう努力する
- ・ アップテンポ物はアクセントとなるフレーズが必要な場合がある
- ・ のそのそしているだけの曲はなるだけ作品には出さない

一つの曲の中で、其の曲を思い起こさせるインパクトあるフレーズを骨に、曲を構築しては？つまり、ピアノでも何でもいいから、其のメロディーを演奏するとあの曲だ！とすぐ分かる様にするという事だ。其れができればナオナオ自作でもある程度インパクトのある曲を作って歌う事は出来る。例えば暴れん坊將軍の 4-43 だつて出だしの 3 秒くらいを聞けばあれだ！と気付くでしょう。ファンを飽きさせない、頭に焼き付けるメロディを作れるように自己鍛錬を積んでほしい。

購買層の分析と飽きない作品作りは必要不可欠だ。Nahoko 音は自分が音楽活動をやりたい、まだナオタンは健在なのだという事を示す事には役立った。ファンの不安を取り去ってくれた事は感謝したい。だから、次はここからもう一歩、二歩前に進んだ作品をだすべきだ。このままのやり方だと、はじめは復帰してくれた嬉しさもあいまって売れ行き好調でも音楽その物にインパクトが薄いので固定的なナオタンファンですら次第に離れていくような気がする。自分を含め、そういう人達は主に過去のヒット曲のほうを聞きたくなるだろう。過去のナオタンの出た TV 番組の映像を録画する方に夢中になるだろう。ナオタンの自作曲はこのまま行くとコンサート開での過去のアイドル時代初期のヒット曲の間奏と時間稼ぎにしかなりえない。現在は育児の都合で仕方ないにせよ(無理にテレビに出てかすれた声で歌ったとしても痛々しい)、歌手としての能力のほうが作曲能力よりも高いレベルであるので将来的にはどちらかといえば作曲活動よりは歌手活動の部分に重点を置いていくべきだというのが自分の意見だ。

一般的に、人間というのはヤングの時の思い出、価値観に哀愁を惹かれるものだし、ナオタンが年を取れば、其れを支えているファンも年を取る。年を取ればファンの嗜好が其の人のヤング時代をベースに固定化されてしまう傾向にあるものだよ。其れは別に悪い事では無いし、例えばガキが成長してヤング時代を経て大人になり、オジンオバン、ジジババになって年を重ねて最後は死んでしまうのが不可避なのと同じようにごくごく自然な事なのだ。

ナオタンはピアノだけでなくマンドリン、ギター、腹太鼓も弾けるらしい。曲自体のイン

パクトが薄いので同じ様な形態でまたピアノ作品や他の楽器での演奏作品を出した場合、今作の総購入者数(ア iTunes で DL した人数+CD の購入者数)よりは確実に減るだろう。宣伝方法を工夫すれば漸減か同水準となるだろう。宣伝方法と作品内容がナオタンファンの的を得たものならば増加するだろう。どうなるかはナオタン次第である。賢い行動と自身の地力を生かした作品を期待したい。

第2章 ネットとCD販売との連携に関する考察

本章ではCDをリリースした後に出来た？販売促進用ホームページ <http://www.nahoko.jp/ja/info/index.html> と音楽作品販売との連携について考察を行う。各節では以下の考察を行う。

2.1 CD作品が予想以上に売れた要因

2.2 販売戦略の問題点

2.2.1 問題点1 アイツネではなく、公式サイトで市場調査すべき

2.2.2 問題点2 宣伝不足とCDの入手しにくさ

2.2.3 問題点3 ホームページの知名度が低く、内容も浅い

2.3 改善案

2.3.1 公式ページの活用1 ファンからの意見の集計と其の蓄積と分析

2.3.2 公式ページの活用2 ナオタン自身によるPR

2.4 ホームページとCD販売の連携についての結論

2.1 アイツネでのnahoko音が予想以上に売れた要因

アイツネでの売り上げが健闘した要因についての考察をする。この要因としては全くメディアに出ない今のナオタンが12年ぶりに新作をだしたから其の懐かしさ、恋しきゆえにファンの中で長年募っていた期待が少し暴発気味になったのではと考えられる。ピアノの作品の音楽は、確かに曲にはなっているのだが、頭に焼きつくフレーズ、一曲単位でインパクトを与えるような曲に乏しいので、次回以降で同じ趣向の作品をだしても、音楽的なインパクトはないだろう。ナオタンは色々楽器が使えるようであるが、ピアノがマンドリン、ギター、腹太鼓のようなほかの楽器に変わっても話は同じである。相変わらず作曲に関してはこんな感じだろう・・・といえる。歌う作品を出してほしいものである。つまり復帰作第一弾という話題性から売れたのだ。完全自作アルバム第一弾として売れたスカーレットと共通する部分である。そして同じ企画、同じ様な売り出し方を2作、3作と続けていけば其の話題性は薄れ、また売上は落ち込んでいく。経験的にも之はいえる。其れが現実である。自身が主体的に音楽活動をしたいなら其の現実から目をそむけてはいけない。ナオタンが之を予防するには飽きない企画、歌手としての復帰、ファン層の分析と其の要望の反映をし続けるのが大事だ。ナオタン自身もただ作るだけでなく、ファンの動向や分析、CD売上枚数に関する考察を行うべきだ。

2.2 販売戦略の問題点

図2.1が販売戦略の問題点の図である。

2.2.1 問題点1 アイツネではなく、公式サイトで市場調査すべき

結果的にアイツネでの曲のネット販売は作品リリースという名の市場調査であるといえる。結果論からいうとアイツネでDLにした後でCDを出すという手法はCDの売上を落としている。アイツネで売れたからCD出しました・・・では行き当たりばったりで先見性にかけている。アイツネでDLした人達はCDにあったブックレットが無いので結果的に損をしている。そして、先にDLしたほうに熱心なファンが多いだろう。そういう人達に対してそれじゃあもう一回CDで買って下さいではせつかくDLした多くの熱心なナオタンファンに酷ではないか。単なる市場調査のだしに使われた不公平感を味わうだけではないか。そういう所が商売が下手だ。自分は衝動に駆られる人間ではないのでしばらく傍観して動向を探っていた。後でCDが出たので結果的に自分は得をした。

今でもナオタンの作品を聞いてくれるファンがいるのだろうか・・・というような不安があったとコメントで書いてあったが、そういう場合はまず公式サイトを作ってから意見を募って作品リリースの予告をすべきだったのだ。ブログを開設する手もある。其れと、過去のベスト盤、アルバム復刻版も含むCD作品や売上資料、ファンの其の時の反応などを分析する事で、動向の予測はある程度可能なはずであり、逆に言えば、本人が主体的に音楽活動をするにもかかわらず、こういう分析を怠っていたと言う事だ。アイツネ、CD販売、公式サイト見てもらう・・・ではとるべき順番が逆だ。そういう所にも知恵を絞るべきだ。といってもこのくらいは超基本的な事だと思うが、

公式サイトは検索エンジンに登録するのと、2チャンのナオタンスレやファンサイトのスレにファンを装ってでも本人としての書き込みでもよいからリンクでも貼ったり所属のレコード会社に宣伝してもらいなりすれば、大方のファンに認知されるのは早かっただろう。ナオタンはあまり物事を具体的に言わないから何を言いたいのか伝わらない。

2.2.2 問題点2 宣伝不足とCDの入手しにくさ

CDが入手しにくいのと、ネット環境が無いナオタンファンに対して宣伝できないので取りこぼしが多すぎる。何故コロムビアと契約していないのか疑問に思う。コメントで何故コロムビアが作品製作にかかわらないのかを説明すべきだ。何かやましい事でもあったのだろうか?そして、何故CDボックスやベスト盤に何のコメントもないのかも疑問だ。最低限、大手のCD販売店以外でも普通に入手できるようにした方がいい。其れと、テレビかラジオでも宣伝はすべきではと思う。歌の練習をしていないなら、中高年向けの音楽番組にナオタン特集でも組んでもらってビデオメッセージでも送る方法でもいい。ファンの年代的にナオタンファンではあってもパソコンが苦手な人間もいる。そういう人達にCD購入のチャンスを与えてみてはどうか。

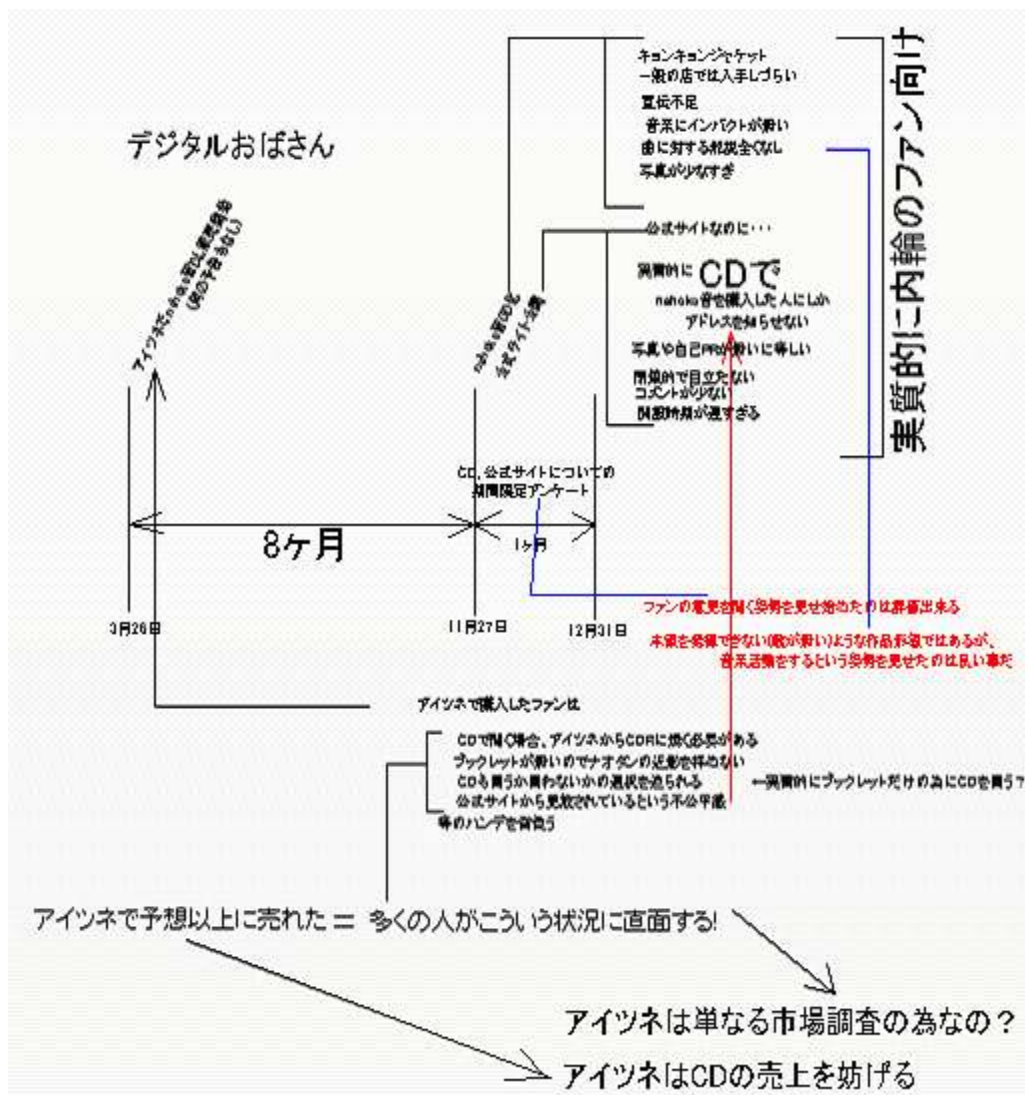


図 2.1 今回のナオタンの販売方法の問題点

今回の販売戦略?の問題点として、大きく上げられるのは

1 アイツネで先に DL 販売をしてしまった

→CD 販売と DL 販売とで生じる内容の不公平感

→CD の売上の妨げ

2 公式サイト公開が CD 販売の後になっている

→CD 販売前の市場調査, 企画販売への反映が出来ない

である。特に、アイツネは痛い。予想以上に売れたという事は CD を買ってくれる人の数を減らす事に大きく貢献している。また、CD にはあるブックレットが無い。之は早とちりをしたナオタンファンにとっては大きな痛手ではないか。もう一回全く同じのを CD で購入する選択に迫られ、結果的に買う側にとっても売る側にとってもアイツネ DL 販売は大きな無駄な行為になっている。それでもってまだ買ってくれるファンがいるのでよかった・・・などと喜んでいるだけのようでは、この先が危ぶまれる。だからナオタンは天然だと思われる。販売戦略？の反省点をきっちり頭に入れておくべきだ。と言うか、買う側のおかれた状況をよく考えた方がいい。現状では何も考えていないように見えるよ。

2.2.3 問題点 3 ホームページの知名度が低く、内容も浅い

宣伝用ホームページは CD のケースの中側にアドレスを載せ、其れを買った人が見る事でサイトの存在を知るだけになっているのでホームページの知名度が得られにくい。アイツネで売れたという事は CD の売り上げはさほど見込めないであろうからその傾向はなおさらであり、アイツネでのみ曲を購入した人に対して不公平ではないか。

其の宣伝用の公式サイトも閉鎖的で、公式サイトのはずなのに自身のまともな写真すらなく、実質的にナオタンファン向けのホームページなのに、CD 作品の内容がファンの傾向にあわないという矛盾であり、逆に言うと昔からのナオタンファン以外にもファンを取り込む事を狙っているのならばなぜああいう消極的な売り出し方をするのかという矛盾なのだ。こういう場合、最初の頃は売り出し好調でも、後々売上が地を這う結果となるので気を付ける事。アイドル好きというのはどちらかといえば保守的である。一時的にこっちを向いてくれても、傾向がファンの的を得たもので無いと、そっぽを向き始めるだろう。そうなったらそれこそ過去の功績だけをあてにしている歌手になる。そうあってほしくない。大多数のファンの視線を過去のナオタンから今のナオタンに移してほしいという気があるなら的を得た作品作り+販売戦略をセットで行ってくれ。

2.3 改善案

Nahoko 音をリリースする際にどうすべきであったかを考察する。過ぎてしまった事をどうすればよかったと仮定することは過ぎた事其の物の結果は返られないが、経験の学習になり、これからの行動への参考材料となる。自分だったらどうすべきだったかという案をずさんな図で申し訳ないが、図 3 に示す。簡単に言うと、初めに公式サイトを作る、そして、そこで色々ファンから情報を吸い取る、それからファンからの意見も聞きつつ、企画を始め、其の予告と宣伝をしながら CD を製作し、販売する。そして、時間の都合をつけてちょくちょくテレビやラジオなどで宣伝する。公式サイトやブックレットなどで曲に対する主張やナオタンの写真を沢山載せる・・・そうすれば CD の売上促進、ナオタンの音楽活動へのファンの再認知は非常に効率よく行われるのである。アイツネは CD 販売と同時か後で始めるかどちらかにする、という段取りにすべきだったのである。

別の方法もある。アイツネで販売したのとは別の曲をCDでだしたり、アイツネで販売した物に別の曲も一緒に作品に入れるという手段だ。そうすれば、CDの内容もアイツネとは別の物になり、ブックレットだけの為に同じのを二度かう必要に迫られないし、不公平感も払拭できるのではないか。

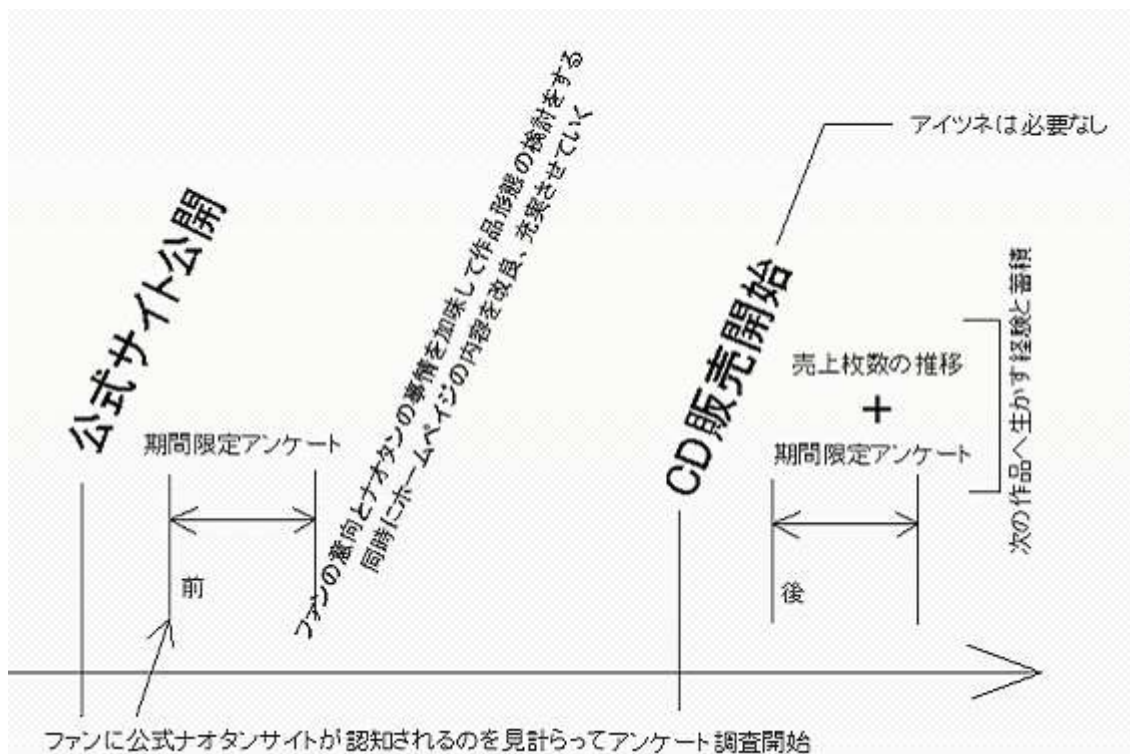


図3 自分だったらこうすべきだったという案

公式サイト、販売会社関連のサイトを活用すれば色々な分析が行え、それが販売拡大や的を得た作品のリリースに大きくつながる。公式ページの活用法として、2.3.1 節でファンからの意見の集計と其の蓄積と分析、2.3.2 節でナオタン自身による宣伝について考察する。

2.3.1 公式ページの活用1 ファンからの意見の集計と其の蓄積と分析

そもそも公式ページは販売の前と後に対して効果的対処を加える事により、CD売上をより円滑に伸ばす重要な役割を持っている。アンケートの活用は、主に事後対処なのだが、図2.2のように、ある程度アンケートと売上資料のセットがたまってくると、其れをデータベース化する事で、CDの企画、製作段階においてファンの動向のある程度の確かな予想が可能となる。つまりアンケートの事後対処と分析を積み重ねると効果的な事前対処が可能となっていくのである。

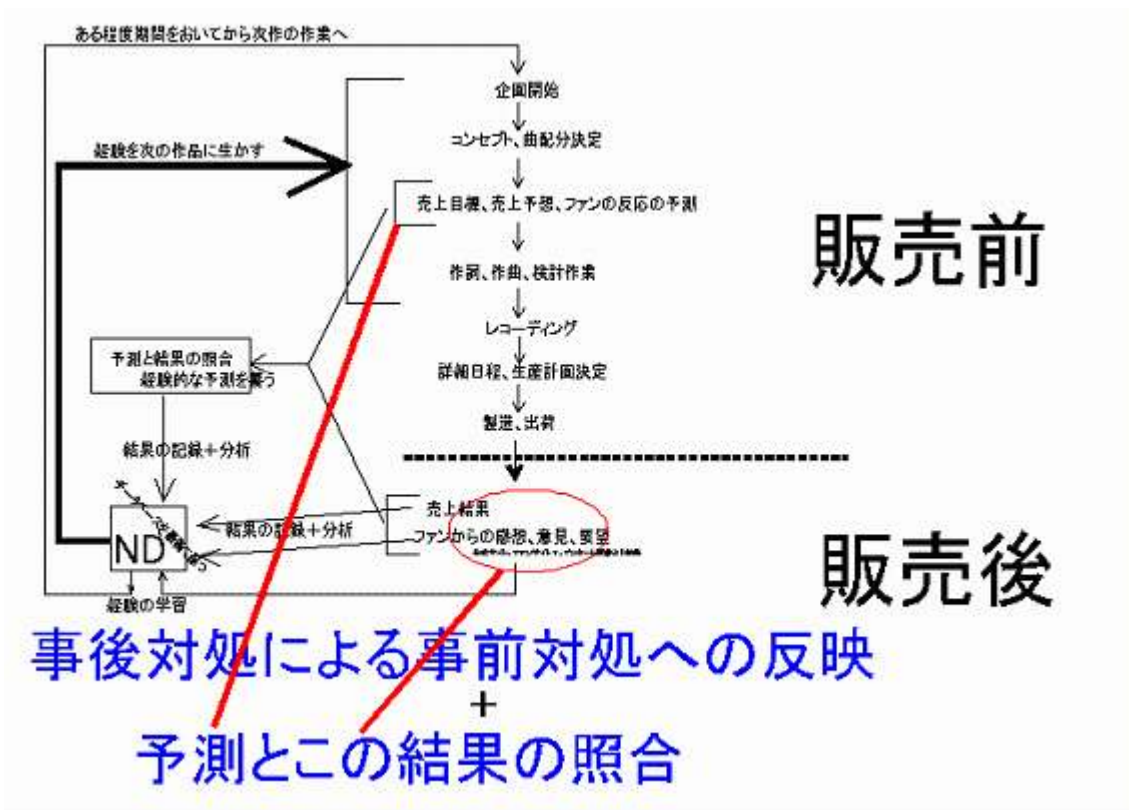


図 2.2 公式サイトアンケートの活用

2.3.2 公式ページの活用 2 ナオタン自身による PR

要するに販売の予告とファンへのメッセージだ。ナオタンのコメントや自身による PR があるとないとでは多少なりともファンの側の意識に変化を起こすだろう。コメントには二種類あり、どちらかといえば、定期的、ある程度の間隔を置いて出される物と、商業的意味合いの強い、販売前後に出される物がある。今回は後者について話をするが、ナオタン自身がテレビやラジオにでる機会は限られている。出たいからといって出られるものでも無いだろう。こういう時にインターネットを活用すればいいのだし、コメントを出すだけではなく、写真や動画で宣伝する事も可能だ。之は事前事後によらず、タイミングを見計らって柔軟に出す事が可能だろう。

今回の場合、販売し始めてから購買者にみてもらうという方式にしてしまったので、コメントは事後対処のみ（CD ケースの、CD を取り出した面にこそこそと書いてあるアドレスを見る事でファンが CD を買った後に公式サイトが存在を知るような仕組みにしたから）、アンケートも事後対処とみなされる。つまり片方の対処しかしていない。要するに販売前の対処を欠いていた。其れにも増して、何ヶ月も前に iTunes でダウンロード販売を始めていて、結果的に之ら 2 つの行為により、CD の売上を落としてしまった。どう見ても行き当たりばったりで行動しているようにしか見えない無謀なやり方である。この事について具体的に書く。

2.4 ホームページと CD 販売の連携についての結論

ファンの的を得た作品をリリースし、安定した売り上げ規模を維持するには公式サイト
の継続的な有効利用は必要不可欠である。販売データや統計的なデータは積み重ならな
いと意味がない。連携だけでなく、ホームページ、音楽作品の中身についても磨かなければ
いけない。つまり、音楽作品というのはただ曲を作って歌うだけではなく、其の作品を出すに
あたり、非常に複雑で高度な作業工程が必要になるのだ。今回の指摘した事について、失敗
も良い経験にはなったはずである。

公式サイトは使い方によっては自身の PR だけでなく、CD の販売促進にも活用できる。
髭剃り機のような移動式電話(画像キャプチャや撮影、音楽再生もできたりするらしい)やノ
ートブックに近いような個人用 PC(小さく作りすぎて CPU の発熱がひどい)が世にはばか
る今の時代、インターネットの活用は音楽活動を支える上でなくてはならない物だろう。
公式サイトは買い手から意見を聞けるので、CD 出す前は市場調査やファンへのリリースの
予告、企画の判断材料にもなるし、販売後は其の感想を集める事で、売上枚数という数値変
動のデータだけでなく、其の作品の評価できる点、できない点を見出すの事もできる。つ
まり事前処理、事後処理の両方ができるのだ。しかし、ナオタンくらいの年代の人は個人用
PC があまり広まっていない時にヤング時代をすごした年代だ。PC に不慣れな人間も数多
くいるのではと考えられる。だから、アマゾンだの HMV あたりのネット販売または、大手
の CD 販売店でしか CD が入手できないという事(注文しても入荷しないと事)と、ネッ
ト以外での宣伝を一切しないという事は取りこぼしの大量発生につながり、得策とはいえ
ない。デジタルおばさん化現象である。

まず CD を販売するには公式サイトを開き、そこから色々反応を調べ、自分の取るべき作
品の手段、形態を判断すべきであった。アイツネの DL 販売を先にやった事は結果的に CD
の売上枚数を落とし、CD をより入手しにくい物とし、先に DL 販売の方を買ったファンに
とってはブックレットなしというハンデを蒙ってしまった。ネット販売の先行から CD の
販売開始というのは確かに、潜在的市場規模の表れを目にできたのだが、其れは一時的な
喜びであると自分は思う。過去(アイドル時代)の功績、本人の洗剤能力、容姿の良さ、復帰
第一作の話題性に起因する物である。とはいっても、平成 8 年末あたりから何の予告もなし
に休業し、翌年の 5 月の出産会見を最後に TV に出なくなり、その後に売れた CD ボックス
にすらコメントもよせないで引退かとみなされていた状態で音楽活動をするという意思
を見せているという事をファンに認知させる事には役立った。だが復帰第一作という話題
性を集める事で、作品の出来栄え以上の売上を記録するのは経験的にある程度予測可能で
あったのではないかと考える。インターネット環境の有効利用という点について色々学習
と経験を積むべきである。そして、歌とピアノが弾けるだけではなく、ファンの心も引ける
ように頭を使ってください。ちゃんと使えるアイデアは取り入れて下さい。

第3章 結論

ナオタンの場合、見た目、歌唱力が高く、アーティストの中では数少ない美形であるにも関わらずミーハー的要素に乏しく、ファンが殆ど中高年のアイドル好きに偏っているから固定的傾向が強い。ナオタンは世代を超えて知名度のあるタイプのアーティストではないのだという事はナオタン自身が最も自覚しなければならない。別にある特定の年代にしか知名度が無くたって其れは悪い事ではないよ。殆どの歌手はそういう状況に置かれている。知名度が広く、売り上げ規模が大きいのはごくごく一部である。そうなら、其の状況に適応した行動をするべきというだけだ。自分はナオタンが自身の能力を生かし、多くのナオタンファンの的を得た作品を出してほしいと思って色々考えている。ナオタンの音楽性+ファンの(一部の盲従主義者だけではない多くのナオタンファンの事)要望も取り入れるという事を両立してほしい。やり方によってはファンの要望とナオタンの自作曲はトレードオフではなくなる。しかし、其のやり方というのは簡単にはいかない物ばかりだ。それに、最適な行動とは一通りではなく、いく通りものパターンがありそれらはパレート解である。知恵と結果分析、挙動予測と其の照合、地道な努力、おかれた状況に見合った合理的な行動を伴ってこそ其れはなしえるのだ。